

平成23年度

決算報告

平成23年度事業報告及び各会計収支決算について次のとおりいずれも承認されました。				
■平成23年度一般会計歳入歳出決算報告		歳入 279,026,292円	歳出 279,026,292円	翌年度繰越金 0円
歳入	歳入合計	279,026,292円	歳出	歳出合計
1 一般社資(社費、寄付金)収入	190,215,205円		1 災害救護事業と装備費	31,797,582円
2 法人社資収入	7,837,845円		2 救急法等講習会費	16,473,871円
3 その他収入(繰越金等)	67,630,589円		3 赤十字奉仕団(ボランティア)育成費	19,383,051円
4 義援金預り金(福島県豪雨災害)	13,342,653円		4 青少年赤十字(JRC)育成費	21,227,132円
			5 医療事業費・血液事業費	9,710,283円
			6 国際活動費	1,186,400円
			7 救護看護師養成費	8,410,410円
			8 地区・分区(市町村)活動費	42,333,887円
			9 日赤本社活動費	28,123,027円
			10 社員増強・社資募集等経費	26,455,920円
			11 社会福祉費	2,363,194円
			12 支部業務管理費	58,218,882円
			13 義援金送付	13,342,653円
■平成23年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告				
収益的収入		6,707,889,432円	収益的支出	6,619,377,980円
			差引	88,511,452円
■平成23年度血液事業特別会計歳入歳出決算報告				
収益的収入		3,123,124,484円	収益的支出	3,452,593,363円
			差引	△329,468,879円

受章者の紹介

皆様からのご支援に感謝しております。(平成24年1月1日～平成24年11月30日)順不同・敬称略	
紺 綬 褒 章 年間500万円以上	銀 色 有 功 章 累計が20万円以上
●白 河 市 小 櫻 輝	●福 島 市 ネットトヨタ福島㈱
	●福 島 市 福島地区管工事協同組合
厚生労働大臣感謝状 年間100万円以上	●郡 山 市 蔭山 弘
●本 宮 市 鈴木美保子	●会津若松市 広川 俊宏
●会津若松市 神保ヨシノ	●郡 山 市 相良 正光
	●会津若松市 つるが松窪病院
日本赤十字社社長感謝状 金色有功章受章後累計50万円の都度	●郡 山 市 七宮 仁
●白 河 市 小 櫻 輝	●会津若松市 水上 洋一
●喜多方市 小澤喜代志	●喜多方市 渡部 正敏
	●喜多方市 伊藤 初枝
	●喜多方市 岩橋 庄助
金色有功章 累計が50万円以上	●喜多方市 岩橋 庄助
●郡 山 市 古川 朝男	●喜多方市 笹川 英雄
●会津若松市 山本不動産㈱	●喜多方市 長谷川力子
●茨城県竜巻災害義援金	●喜多方市 宇川 平
●栃木県竜巻災害義援金	●いわき市 長根 正雄
●平成24年7月大分県大雨災害義援金	●三 春 町 ㈱芳三工業
●平成24年7月福岡県豪雨災害義援金	●石 川 町 加ト吉水産㈱フーズ部福島工場
●H24.7.12 熊本広域大水害義援金	●磐 梯 町 日曹金属化学㈱会津工場
●平成24年8月京都府南部豪雨災害義援金	●郡 山 市 古川 照
●会津若松市 松田 秀雄	●郡 山 市 櫻井 信六

平成24年

国内義援金・海外救援金受付状況

(平成24年11月30日現在)

国内義援金

● 東日本大震災義援金 (H23. 3. 12 からの累計)

785,548,082 円

● 茨城県竜巻災害義援金

74,747 円

● 栃木県竜巻災害義援金

75,664 円

● 平成 24 年7月大分県大雨災害義援金

234,528 円

● 平成 24 年7月福岡県豪雨災害義援金

176,208 円

● H24. 7. 12 熊本広域大水害義援金

200,708 円

● 平成 24 年8月京都府南部豪雨災害義援金

55,541 円

合 計

786,365,478円

海外救援金

● シリア人道危機救援金

3,000 円

合 計

3,000円

発行所／日本赤十字社福島県支部

福島市永井川字北原田17

電話024(545)7997代

<http://www.fukushima.jrc.or.jp/>

+

日赤福島

平成25年1月

第37号

題字：日本赤十字社福島県支部長 佐藤雄平(福島県知事)

～福島のために～

赤十字は復興支援活動に全力を注いでいます



▲「すまいるぱーく」会場にて

東日本大震災からまもなく2年になります。震災で亡くなられた方々へ改めて追悼の意を表すとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

日本赤十字社福島県支部では、発災直後から医療救護班の派遣をはじめ県内各地の赤十字奉仕団によるボランティア活動などで被災者支援を行ってきました。

現在も、復興に向けて様々な支援事業を展開しています。平成24年度は原発事故後の放射線不安で屋外活動を制限されている子供たちが安心して遊べる屋内型プレイランド「すまいるぱーく」を県内6か所で開催しました。会場には巨大エア遊具やエアトラック、ボールプール、ぬりえコーナーなどを設置し、体操教室やバルーンアートなどのイベントも行ないました。開催中は連日、多くの子供たちと保護者が訪れ、場内は皆さんの笑顔と歓声が溢れました。

赤十字の活動資金に協力をお願いします

ご協力いただいた金額により表彰があり、税制上の優遇措置もあります。

+

赤十字の活動は一人ひとりのやさしさに支えられています

災害救護活動

Disaster Relief

国際活動

(救護と開発協力) International Activities

医療事業

Medical Services

看護師等養成

Training the Nurses

血液事業

Blood Programme

赤十字ボランティア

Volunteers

講習普及事業

Safety Services

青少年赤十字

Junior Red Cross

社会福祉事業

Social Welfare Savices

お問い合わせ

組織振興課：024(545)7998

+

日本赤十字社 福島県支部

Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

+

日本赤十字社 福島県支部

Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

「平成24年赤十字ボランティアのつどい ～福島を元気にしよう～」を開催



式典の様子



浪江町民と白沢赤十字奉仕団が踊りを披露

10月10日、郡山市のビッグパレットふくしまで「平成24年赤十字ボランティアのつどい」を開催し、約750人の奉仕団員及び関係者が参加しました。式典では、県内146団、1万3千人余の赤十字奉仕団員の中から、永年にわたり赤十字活動に功績があった282人のボランティアが表彰されました。続いて、本宮市白沢赤十字奉仕団から現在も二本松市での避難が続く浪江町民の仮設住宅支援や住民との交流について報告がありました。報告の最後には、浪江町民の愛唱歌である「ふるさと浪江」に合わせて、町民と奉仕団員と一緒に踊りを披露しました。懐かしい故郷の風景を綴った歌詞と心のこもった踊りは参加者の涙を誘いました。また、NPO法人地球のステージ代表理事桑山紀彦氏による「地球のステージ4」の公演も行われました。

赤十字は 復興支援に 取り組んでいます

元気で健康にお過ごしいただくために

仮設住宅等に避難されている方を対象に、赤十字奉仕団の協力により様々な活動が行われています。救急法や生活支援講習を学ぶ「赤十字救急法講習会」、高齢者の健康づくりとこころのケアを支援する「にこにこ健康教室」、避難町村の住民が一堂に会する機会を提供する「住民交流会」、健康増進のための「ノルディックウォーキング」などを開催しています。また、奉仕団の企画による「手芸教室」、「お茶会」、「花いっぱい運動」などを各地で実施しています。



「ノルディックウォーキング」



「赤十字にこにこ健康教室」

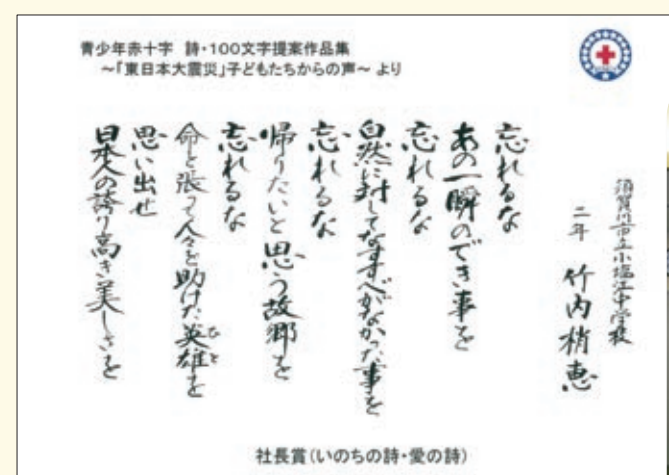


「住民交流会」



「パッチワーク教室」

「詩・100文字提案」作品の表彰



東日本大震災を経験した

県内の青少年赤十字加盟校の皆さんに、思い感じていることを詩や100文字提案として募集しました。加盟校76校から4,739点の応募があり、審査会において社長賞1点、支部長賞5点ほか入賞作品が選ばれました。11月29日の表彰式では、受賞者一人ひとりが自分の言葉で力強く作品を披露しました。



さまざまな復興支援事業

日本赤十字社が行う復興支援事業は、世界の赤十字社から寄せられた「海外救援金」をもとに進められています。前述で紹介した事業のほか、仮設住宅等での家電6点セットの寄贈、仮設コミュニティセンターの開設、スクールバスや体育館の整備、自治体への食品用放射線測定器の寄贈、健康講演会、映画上映会、支援ライブ、被災校支援など多くの事業に取り組んでいます。



「赤十字健康講演」



「スクールバス寄贈(葛尾村)」



「被災校支援」



「支援ライブ」